

花ノ木 中街道遺跡発掘通信 No.2

**花ノ木遺跡から
完形品の山茶碗と中国産の白磁が出土しました!!!。**

山茶碗とは今からやく900年ほど前の11世紀ごろに今の愛知県や岐阜県を中心に焼かれた素焼きの焼き物です。山茶碗にも色々な種類が存在します。特に瀬戸や猿投、知多などの地で作られた尾張型と言うものや、多治見や恵那、中津川などで作られた東濃型と言うものが良く知られ、碗や皿などが出土します。

今回出土した山茶碗は溝跡からの出土で

12、13世紀代の尾張型であり、特に残りの良い、大変貴重なものでした。

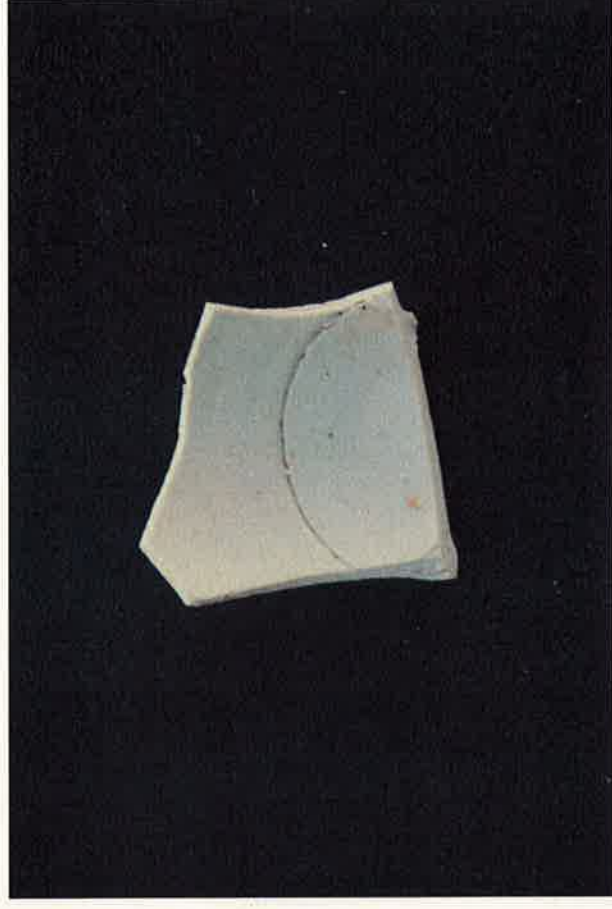
白磁は中国の焼物で中国でも古くから作られ、特に唐代の荊州窯や宋代の景德鎮窯などは有名です。

白色の胎土に半透明の釉薬が掛かるのが特徴で、日本には平安時代に入ってきています。

今回河跡より出土した白磁片は碗であり、中国で焼かれた遺物が出土した事で、この地の当時の人々は海外の食器も使用していた事がわかりました。



花ノ木遺跡での山茶碗の出土状況



河跡より出土した白磁碗